

# 業界継続の魅力

関東グラビア協同組合 理事  
大日本パッケージ(株) 代表取締役社長 諸石 武士



GPJAPAN 巻頭言は初執筆ですので、少しご挨拶をさせていただきます。2023年2月に大日本パッケージ(株)の代表取締役社長に就任致しました諸石武士です。社長就任の際には、業界関係者の方々からご丁寧なお祝いのお言葉をいただき、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。先代の田口 薫会長の存在はあまりにも大きく、遠く険しい道のりと思っております。自分らしい良き経営者を目指して精進いたす所存です。経営者としては若輩者でありますので、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。関東グラビア協同組合の理事には、日本パッケージ(株)として引き続き務めさせていただきます。

さて、私も中小企業の同族事業継承に携わった者として、これからの経営の継続、先の経営者候補を真剣に考えねばなりません。そのためにも魅力ある会社、業界にしていきたい思いです。しかしながら、経営継続にとってのアゲンストな話題はきりがありません。気候変動、戦争紛争、人員不足、物価高騰、資材部材調達難、労働規制、保険料引上、物流2024年問題などなど。最近では、当業界においてもオーナー経営者がM&Aを行う話も聞くようになりました。M&Aは譲渡後の経営がうまくいけば、事業や雇用が守られ、悪い選択肢ではないとも思っていますが、後継者がいないというのは淋しい話でもあります。

一方で、経営継続にとってフォローな話題を探すと、何があるのか考えてしまいます。新型コロナ禍脱却で消費回復、外国人技能実習制度の見直し、スポーツ業界には明るい話が多いように感じます。最近話題のChatGPT、AIの進化に使い方の規制が追い付いていませんが、経営判断に使用できる？ AIのクローン化経営者に任せられる時代がくるかもしれません。話題が少ないので飛躍してしまいましたが、最後にもう一つ、フォローな話題があります。今やコストプッシュ型のインフレーション時代です。何もしなければ事業の存続危機に関わるアゲンストですが、経費増大や賃上げ分に対応するべく思い切って価格に転嫁するチャンスでもあります。経済産業省も下請取引適正化、利益保護の推進をしてくれています。価格転嫁による効果は、売上増大、利益増大、社員士気向上、事業継続の必要コストへの投資など経営改善、業界改善のフォローになります。

若輩経営者の希望でもありますが、次の世代に少しでも魅力ある会社、業界にしていきたい思いです。

# GP JAPAN

全グラ情報



## CONTENTS

<b>巻頭言 業界継続の魅力</b> .....	<b>1</b>
関東グラビア協同組合 理事 大日本パッケージ(株) 代表取締役社長 諸石武士	
<b>組合員・単組の近況</b>	
関東グラビア協同組合 第53回通常総会・理事会 .....	<b>4</b>
新理事長に東京加工紙の吉原宗彦氏、新副理事長にトーホー加工の 川田雄治氏、新理事に東和プロセスの福島 潤氏	
関西グラビア協同組合 第53期通常総会開催報告 .....	<b>11</b>
<b>目立ってしまいますが、実力もすごいのです</b> .....	<b>14</b>
軟包装価値向上委員会	
<b>有田俊雄氏 特別講演会を7月6日に開催</b> .....	<b>16</b>
interpack 2023 視察報告を交えたグローバル包装動向について ～包装界の未来に対する提言と今後への期待～	
<b>今月の気になる製品</b> .....	<b>17</b>
環境調和型 L-LDPE フィルム [LL-HMN] フタムラ化学(株)	
<b>Data Watch 2023年2月データ</b> .....	<b>18</b>
紙・板紙/不織布/粘着テープ・シート類/プラスチックフィルム・シート/インキ/ ポリプロピレンフィルム/印刷加工機械/印刷機械輸出入/アルミ箔/ポリオレフィンフィルム	
<b>紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷</b> 2023年3月データ .....	<b>24</b>
<b>GP 認定制度申請についてのお願い</b> .....	<b>28</b>
<b>GP 工場認定制度無料説明会のご案内</b> .....	<b>30</b>
<b>STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン</b> .....	<b>32</b>

今月の表紙

写真1段目：関東グラビア協同組合の田口 薫最高顧問理事、安永研二副理事長、山下雅稔副理事長、関西グラビア協同組合の竹下晋司理事長

写真2段目：2023年5月19日(金)に開催された関西グラビア協同組合の第53期通常総会の様子(詳細は本文11頁参照)

写真3段目：関東グラビア協同組合の吉原宗彦新理事長、川田雄治新副理事長、諸石武士理事、佐藤裕芳監事

写真4段目：2023年5月18日(木)に開催された関東グラビア協同組合の第53回通常総会の様子(詳細は本文4頁参照)



# WE LOVE GRAVURE

**Z世代の環境意識とチル消費に関する実態調査**…………… 34  
 約6割が環境問題に危機感あり、山・森林で“チル”を実感

**東ト協連 第38回「運賃動向調査」結果 (3)標準的な運賃の告示** … 38  
 「標準的な運賃」届出済は約7割、荷主等への交渉は消極的

**サステナビリティサイト年次更新、SASB 対照表、外部インシアチブへの署名・参画一覧を新設** … 41  
 キューピー(株)

## JFPI

労働安全セミナー『新たな化学物質管理規制の導入による法改正とその対応』Part2  
 『化学物質管理 リスクアセスメントの取り組みについて』…………… 42  
 (株)イシトク 総務部課長 山田幸男氏

**第53回 GP 工場交流会**…………… 46  
 2023年度グリーン購入法基本方針、印刷用紙、CFPなどが改定に

## Information

産経新聞社、「CALENDAR DESIGN 2023」発刊…………… 10  
 東レ・三井化学・熊谷、モノマテリアルフィルム包装材・技術を共同開発…………… 48

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円+税です。

購読および広告出稿を希望される方は、  
**全国グラビア協同組合連合会**  
 e-mail:zenkoku-grv@utopia.ocn.ne.jp  
 http://www.gcj.or.jp/  
 までご連絡下さい。

本文ページの紙は、無塩素漂白パルプから作られたものを使用しています。

発行：2023年6月10日  
 発行人：田口 薫(全国グラビア協同組合連合会会長)  
 発行所：全国グラビア協同組合連合会  
 〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9  
 あさひ墨田ビル  
 TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814  
 編集スタッフ：袖山高明(全国グラビア協同組合連合会専務理事)  
 村田英雄(全国グラビア協同組合連合会顧問)  
 渡邊富美子、酒井由香(同事務局)  
 編集協力：(株)加工技術研究会  
 印刷：(株)遊文舎

### © 全国グラビア協同組合連合会2023

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

# 組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合 第53回通常総会・理事会

## 新理事長に東京加工紙の吉原宗彦氏 新副理事長にトーホー加工の川田雄治氏 新理事に東和プロセスの福島 潤氏

関東グラビア協同組合は、2023年5月18日（木）午後3時より、第一ホテル両国（東京）において第53回通常総会を開催した。当日は、組合員数41名中、本人出席16名、書面議決書・委任状出席19名、合計35名の出席にて議事が進行した。本人出席は田口 薫理事長（大日本パッケージ㈱）、安永研二副理事長（東包印刷㈱）、山下雅稔副理事長（㈱巧芸社）、吉原宗彦副理事長（東京加工紙㈱）、橋本 章理事（橋本ゼロファン印刷㈱）、千田 敦理事（㈱東京ポリエチレン印刷社）、川田雄治理事（トーホー加工㈱）、小林直人理事（八潮化学㈱）、村野 剛理事（信和産業㈱）、諸石武士理事（日本パッケージング㈱）、柴田里香理事（千代田オーク法律事務所）、佐藤裕芳監事（㈱千代田グラビヤ）、岸本一郎監事（㈱カナオカ）、袖山高明専務理事の14名に加え、組合員2名、オブザーバーが1名参加して行われた。総会、理事会を経て、2005年5月、川田善朗氏（故人）の後任として理事長に就任し、以来、9期18年、理事長を務めてきた田口 薫氏が退任し、吉原宗彦氏にバトンが手渡された。また、川田雄治氏が新副理事長に昇格し、㈱東和プロセスの福島 潤氏が新たに理事に加わった。

### 印刷機の更新に100年かかる異常事態



総会に先立ち田口 薫理事長が次のような挨拶を行った。

皆様、ご多忙の中、第53回関東グラビア協同組合通常総会にご参加賜り有り難うございます。今、ロシア

のウクライナ侵攻やコロナの影響、さらに人手不足等、事業環境は悪化しております。今月1日に組合員の1社が不渡りを出しました。とうとう来るべきものが来たのかと、原材料や諸物価の高騰のおおりの受けた仲間に対し慰めの言葉もありま

せん。私共の価値を認めず、叩いて安値発注されている方々が恨めしいです。

さて当社は1964年創業の後発メーカーです。初めのうちは仕事がなく苦勞しましたが、開業10年後に発生した石油パニックを起点に仕事に恵まれ、ポロ工場から軟包装衛生協議会（軟衛協）の指導書に基づき小さな衛生工場を建て、最初の認定群に入り、13号の認定番号をいただきました。それまでとは違って胸を張って大得意先の上場食品メーカーの社長をお招きして新工場を見ていただきました。しかし、その方は石油パニック時の値上げに立腹されたのか、評価をして下さらず、むしろ安値を求められましたので、私は売上3割を占

めていたそのお客様との取引を止め、私共の設備、企業姿勢を評価して下さる先に切り換えました。その後、この上場会社は年々シェアを落とし、今はかつてのシェアの10分の1になってしまいました。人の口に入るものですから、儲けより品質、おいしさ、安全衛生が優先するはずですが、その順番を取り違えていたのではないかと思う次第です。「安物買いの銭失い」と申しますが、これは今も生きています。

今、原料をはじめあらゆるモノの価格が高騰しています。包材の価格交渉は大変ですが、陥没価格の大幅な修正があちこちで行われています。購買側の厳しすぎる姿勢が陥没価格を生んでしまったことも事実です。事情を十二分に説明し、自社の存続を図って下さい。包材会社を叩いても、先の例のように中身メーカーさんもダメージを受けます。決して勝者にはなりません。「安物買いの銭失い」は今も通用しています。

今、当業界には約600社の企業があり、1500台以上のグラビア印刷機が稼働していますが、新規更新は年にたった15台~20台程度です。新しい印刷機に全部入れ替わるのに70年も100年もかかってしまう、異常事態です。身を削ってのご奉公は続きませんし、先の大戦で私達は部分最適でなく

全体最適を学んだのではありませんか。我々軟包装グラビア業界は世の中のコストダウン要請に応えるため、社員の待遇をはじめコンプライアンス・安全衛生等あらゆるコストを削った上での倒産では誰も得をしません。グラビアインキメーカーも1社減りました。安売りだけの業界には若者も寄り付きません。海外研修生とて同じです。皆様、会社に戻られ、軟包材の価値を改めて見直し、それにふさわしい値段をつけていただくよう各方面に働きかけて下さい。

先日、軟衛協の西澤尚浩前会長は「オールジャパン」で闘おうと申されました。スリット、製袋の家族労働の事業所も存続が危うくなっています。これまでのように、一部の人々しか乗れない小乗でなく、みんなが乗れる大乘の考えで、中小零細まで包み込んで参りましょう。

ここで私、18年程続けて参りました関東グラビア協同組合理事長職を、東京加工紙(株)の吉原宗彦社長に譲ります。また、トーホー加工(株)の川田雄治社長に副理事長にご就任いただき、組合の若返りを図りたいと思います。外国人技能実習制度も、初めての経験で戸惑っていますが、何とか組合を円滑に運営して参りたいと思います。

皆様、宜しくお願い致します。





## 令和4年度の総括



議長役に**諸石武士理事**（写真左）が指名され、議事進行が行われた。

第1号議案「**令和4年度（2022年4月～23年3月）決算関係書類承認の件**」では、まず、**安永研二副理事長**（写真下）が、令和4年度事業報告として、組合および組合員をめぐる経済・経営状況について次のように概括した。



今年度（2022年度）は、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に収束に向かいつつあるも、2020年度から続いて来た経済活動の停滞、事業活動の自粛や入国制限によるインバウンド需要の消失などの影響による飲食業、宿泊業及び各種のサービス業を直撃し、様々な事業者が広範な影響を受け、また中小企業経営者にとっても、在宅勤務や時差通勤等の働き方への柔軟な対応など、経営の多様化が定着してきた。

また、原油高の影響により印刷の主要資材であるインキ・溶剤をはじめ、フィルム他石油化学製品などが何度となく大幅に値上がりした。さらに年初より軟包装グラビア用フィルム材料の供給不足が起き、受注残を抱えながら稼働が停止する状況にまで追い込まれる事態も発生した。

このような経済状況が中小企業にも深刻な影響を及ぼす中、中小企業の価格転嫁をメインとした取引改善を行う活動を関東グラビア協同組合においても実施することとなり、全国グラビア協同組合連合会との連携も図り、価格改定（値上）活動の強化がある程度浸透し、フィルム原料の値上げ分の価格転嫁交渉はおおむね年内（2022年）に妥結し、年明けの受注から実質的な増収基調となっ

てきた。

しかしながら、大手流通・小売事業者は頑強に抵抗し続け、主要取引先である食品メーカーの商品価格の値上がりが始まったにもかかわらず、いまでも難航している部分もある。

5月（2023年）には新型コロナウイルス感染症が従来の2類から5類への変更が決定し、社会経済活動のレベルを引き上げていく中で急速に持ち直ししていくことが期待される。

印刷産業では比較的安定しているといわれる軟包装グラビアにおいても、海洋プラスチックごみ問題から派生したプラスチックは「悪」のイメージが多くのメディアから発信され、間違った認識が一般社会に広まっており、それ故、社会に不可欠な軟包材の供給責任を負う業界としては、こうした状況を鑑み、全国グラビア協同組合連合会においては、業界存続の危機と認識し、SDGs（持続的な開発目標）17の目標へ向かい「環境・品質・コスト」の調和と「安全・安心」を目指し、原価意識の確立と適正品質への対応を急がなければ、中小グラビア印刷企業の生きる道はないとし、仮称「軟包装価値向上委員会」発信の『軟包装のキャッチコピー』を作成し、広報活動を開始した。

2020年7月「外国人技能実習制度」の評価試験実施機関の認定通知を受けた後、コロナ禍により出張試験のみとしたが、その後、累計14回試験を実施することができた。

なお、当組合の運営にあたり、組合員各位にはこの1年を通じて、ご支援を賜り、深く感謝申し上げる次第である。



引き続き、**袖山高明専務理事**より令和4年度決算関係書類に基づく報告があり、**佐藤裕芳監事**（写真）が監査報告書を読み上げ、全会一致で承認された。

## 令和5年度の活動



次に、第2号議案「令和5年度（2023年4月～24年3月）事業計画、収支予算並びに経費の賦課および徴収方法決定の件」では、

山下雅稔副理事長が、下記

のような**2023年度事業方針**を披露した。

令和5年度の日本経済は、イベント関連の中止、旅行、外食、教育などとインバウンド需要の減少により社会生活、事業活動に大きな支障が生じていた状況から一転して回復に向かいつつある。また、ロシアのウクライナ侵攻に伴い円安・原油高の事態は様々な分野で顕在化している。企業においては、テレワーク、在宅勤務が定着し、生産現場である大多数の工場では、5回にわたる原紙値上げ、溶剤の供給不安等々で資材の安定調達に支障が出て一部操業停止もあったものの、何とか原材料価格の転嫁が出来つつあり需要も回復の兆しを見せている。しかしながらエネルギーコストの高騰が徐々に企業経営を圧迫し予断を許さない状況は続いている。

当業界でも、2021年来より「パートナーシップによる価値創造の為の転嫁円滑化に関する要請」等の活動を具体化し、強力に「価格転嫁」を推し進めた結果、少しずつ値上げの効果が出つつある。今

後も組合活動を通じ、事業活動についての指針をまとめ組合員に発信する予定である。こうした状況下において、2023年も企業存続を賭けた厳しい経営環境が予想され、政府による中小企業対策、雇用対策、エネルギー対策を含む持続性ある経済対策の取り組み、有給休暇の取得義務化をはじめとする働き方改革やレジ袋無料配布禁止に加え、ワンウェイプラスチックの事業提供者が取り組むべき判断基準も策定される等、様々な課題が山積している。

なにより身近な人々から周知、理解をいただくよう働きかけ、個々の企業が有している経営資源を十分に活かし、環境変化に対応できる体質を上げることが重要であるとともに、ごみ問題から発生したプラスチックは「悪」問題などの、自助努力だけでは解決が困難な課題については、高品質低価格、不条理な返品等を取り上げ、業界、組合が団結し、経済産業省・環境省など行政に積極的に働きかけ、連携組織機能を最大限に活用し、活路を切り拓くことを進める。

当組合では一般社団法人日本印刷産業連合会が認定する「グラビア印刷（軟包装）グリーン基準（GP認定）」の新規取得が、2022年度も進展しなかった。その反省を踏まえ、様々な機会を捉え、SDGsの観点からもGP取得の重要性を訴え、現在の66事業所（全国）から、今期中には70事業所の目標達成ができるようGP制度のさらなる啓蒙



を図っていく。併せて、GP マーク製品表示についても、より一層の理解が得られるよう GP 認定事業所に対して PR 活動を推進し、2021年度に創設された GP 環境大賞『パッケージ印刷部門』、GP マーク普及大賞『グラビア・シール・スクリーン印刷部門』において、継続的に当組合員およびその得意先が受賞できるよう GP 制度の普及活動を展開していく。

関東グラビア協同組合としては、組合員個々が業界の範となり、社会全体から信頼される業界の構築へ務められるよう最大限のサポートを行うべく、下記の事業活動を実施する。組合員ならびに賛助会員各位のご協力をお願いしたい。

**2023年度事業活動骨子**としては次のようなものが挙げられる。

- (1) 省エネ、省資源とプラスチック資源循環による地球環境保全への対応
- (2) 全国グラビア協同組合連合会を通して「日印産連」と連携を取り、行政関連経済支援策・下請適正取引・優越的地位の濫用等に迅速な対応と関連行政官庁の連携強化
- (3) SDGs とカーボンニュートラル社会への貢献
  - \* 「グラビア印刷（軟包装）グリーン基準」に基づく GP 制度の啓蒙と認定取得の奨励・周知活動
  - \* 「規制と自主的取組のベストミックス」による VOC 排出削減へ向けての支援
  - \* 地球温暖化防止のための CO<sub>2</sub> 排出量削減への取組
  - \* 省エネ法への対応の取組
  - \* 環境関連条例等への対応策の検討と規制緩和の推進
  - \* 海洋プラスチックごみ問題について関連メーカーとの連携による資源循環の情報収集
- (4) 会員・賛助会員の増強  
「グラビア印刷（軟包装）グリーン基準」に

基づく GP 制度の啓蒙と認定取得への近道として組合加入促進を図る

- (5) （一社）日本印刷産業連合会への積極的な参加と、関連業界団体との連携強化
- (6) 青年部の育成と拡大
- (7) 「GP JAPAN」の内容充実と広告獲得、拡販
- (8) （一社）日本印刷産業連合会の連携とホームページ運用による広報の取組
- (9) 外国人実習生制度認定団体として、技能実習評価試験の実施体制の更なる拡充
- (10) 消防法、有機溶剤中毒予防規則、改正大気汚染防止法、改正食品用器具及び容器包装の法規制、働き方改革、民法改正等の周知と遵守
- (11) 新型コロナウイルス感染症の予防対策の周知と行動の徹底

そして、教育及び情報提供に関する**2023年度事業計画**としては次のようなものを予定している。

- (1) 省エネ・節電取り組みにおける経営支援及び諸環境法規（法令）の対応支援活動
- (2) 労働安全衛生と消防法の法令遵守の啓蒙と完全実施の推進
  - 危険物乙種第4類及び有機溶剤取扱主任免許取得の奨励と啓蒙運動の展開
- (3) 優越的地位の濫用及び下請法の啓蒙と周知への支援活動
- (4) SDGs とカーボンニュートラル社会への貢献
  - \* グリーンプリンティング認定制度の普及
  - \* グラビア印刷製品 GP マーク表示使用の促進
  - \* VOC 排出削減の維持と促進
  - \* 地球温暖化防止のための CO<sub>2</sub> 排出量削減への取り組み
- (5) 改正食品用器具及び容器包装の法規制、働き方改革等の法改正の周知活動
- (6) 事業継続対策の周知活動
- (7) 各単組及び青年部による見学会・講習会・セミナー・分科会発表等の開催





(8) 全国グラフィア協同組合連合会の機関誌「GP JAPAN」の発行とホームページの充実により組合員・非組合員への情報提供

引き続き、**袖山専務理事**より令和5年度収支予算(案)が紹介され、無事承認された。

第3号議案では「令和5年度(2022年4月~23年3月)における、借入金残高の最高限度額の決定の件」が承認され、第4号議案「理事・監事選挙の件」では、2年間の任期を終え、理事および監事が退任するため、改めて理事13名、監事2名を選出することになった。諸石議長より、選出方法について指名推薦の提案があり、賛成を得たので、袖山専務理事が氏名を読み上げ、承認され、理事・幹事の就任の承諾を得た。

#### 第54期の役員・理事・監事

引き続き、理事会が開催され、第54期の体制が下記のように決定された。敬称略、太字の方が新任。

〈理 事 長〉 **吉原宗彦** (東京加工紙株)

〈副理事長〉 安永研二 (東包印刷株)

山下雅稔 (株巧芸社)

**川田雄治** (トーホー加工株)

〈専務理事〉 袖山高明

〈最高顧問理事〉 **田口 薫** (大日本パッケージ株)

〈理 事〉 橋本 章 (橋本ゼロファン印刷株)

千田 敦 (株東京ポリエチレン印刷社)

小林直人 (八潮化学株)

村野 剛 (信和産業株)

諸石武士 (日本パッケージング株)

**福島 潤** (株東和プロセス)

柴田里香 (千代田オーク法律事務所)

〈監 事〉 佐藤裕芳 (株千代田グラフィヤ)

岸本一郎 (株カナオカ)

ここで、新任の理事長、副理事長の挨拶を紹介しておきます。

#### 吉原宗彦新理事長



関東グラフィア協同組合の理事の皆さんには優秀な方が多く、その中、僭越ではございますが、田口理事長の後任という大役を仰せつかりました。田口理事長におかれましては、全国グラフィア協同組合連合会の会長とともに、関東グラフィア協同組合の理事長を18年という長きにわたり務

務

め、組合員を牽引していただきました。東日本大震災や新型コロナウイルス感染症という未曾有の混乱期を、田口理事長ならではの研鑽を積まれた知識、あるいは熱意を持って我々を牽引していただきました。特に印象に残っているのは、環境、コストなどの難題に対し、常に近江商人の経営哲学である、売手によし、買い手によし、世間によしの「三方よし」の精神で物事に取り組みられることを説かれ、同時に、適正価格での販売の意義を常々訴えられていて、昨今の活動におきましても大変なお力添えをいただきました。業界の発展を長きにわたり尽力していただいた田口理事長には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、我が国の経済は、コロナ禍から脱却し、コロナ前の経済状況に戻ってきたという感がありますが、やはり原材料、電気代をはじめとするユーティリティコストの相次ぐ値上げ、あるいは製造業にとっては深刻な課題である人口減による人手不足、運送業界の2024年問題といった難題が山積しています。ここにいらっしゃる理事の皆様方とともに、1つひとつ、丁寧に、真摯に取り組んでいきたいと思っております。

また、安永副理事長からご提案いただいている、軟包装のイメージアップキャンペーン、我々業界は長い間、大手さんを始め黒子役に徹してきた

め、社会インフラの一端を担う業界でありながら知名度が低く、長い間辛酸をなめてきました。こうした現状を打破するため、メージアップキャンペーンを皆さんとともに成功させて、クライアントの皆さんは勿論、より多くの消費者の方々に我々の境遇を知っていただき、知名度アップと同時に、業界の地位向上を目指していきたいと思っております。

田口前理事長に比べると知識もなく、若輩者ではありますが、精神誠意努めさせていただきますので、ご指導、ご鞭撻宜しく申し上げます。

#### 川田雄治新副理事長



田口理事長よりご熱心なお電話を頂戴し、力不足、経験不足、若輩者ではございますが、新理事長以下、皆様のお役に少しでも立てよう頑張っていきたいと思っております。

田口理事長からは、先代の名前を出され、「俺も先代に仕込まれたんだ」ということで、それは巡ってくる運命と受け入れさせていただきました。表立って発言することはあまり得意ではありませんが、縁の下の力持ちという形でお仕えしていきたいと思っておりますので、皆様、どうぞ宜しくお願いいたします。

### Information

## 産経新聞社、「CALENDAR DESIGN 2023」発刊

産経新聞社は、昨年末に審査が行われた「第74回全国カレンダー展」（日本印刷産業連合会、産経新聞社主催）の入賞作82点を収録した作品集「CALENDAR DESIGN 2023」（総頁数228頁、税込価格11000円）を5月15日に発刊した。各作品をカラー2ページで紹介し、入賞作品の製作上のポイント解説や応募作品の傾向を分析したデータファイルを収録。

以前には類似の出版物があったが、ここ数年発行できずにいたところ、カレンダー業界の中で再出版の希望が多かったため、全国カレンダー展を主催する日本印刷産業連合会からの打診により産経新聞社にて出版することになった。次年度以降も発行を継続し、カレンダーとデザインの世界に貢献していく。

# 組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合

## 第53期通常総会開催報告

関西グラビア協同組合（竹下晋司理事長、㈱ダイコー）は、2023年5月19日（金）午後6時からANAクラウンプラザホテル大阪（平安の間）において、組合員・賛助会員80名参加のもと、第53期通常総会を開催しました。



総会で挨拶をする竹下理事長

総会は、事務局の司会によって進行し、開催に際し竹下理事長が、「新型コロナウイルス感染症が5月8日に5類感染症に移行し、3年間に亘ったコロナという見えぬ敵との闘い、暗いトンネルを抜けて会場でもマスクを外している方が見受けられ、皆さんの笑顔を直接見ることができて嬉しく思っています。本通常総会は77名、懇親会は80名という総会としては過去最多となる組合員・賛助会員の皆様に出席いただけたことを大変喜ばしく思っています。しかしながらコロナが終息した訳ではありません。組合としては引き続き十分に配慮しながら、今期も行事を開催していきたいと思しますので皆様のご協力をお願いします。」と挨拶されました。

続いて、司会より本日の通常総会は本人出席、書面議決書出席の合計出席人数が定足数を満たしたことが告げられ、竹下理事長が議長に選任され議案審議に入りました。

### 【決議事項】

- 第1号議案 令和4年度 事業報告書の承認の件
- 第2号議案 令和4年度 財産目録、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案の承認の件

- 第3号議案 令和5年度 事業計画案及び同収支予算案の承認の件
- 第4号議案 令和5年度 経費の賦課及び徴収方法決定の件
- 第5号議案 任期満了に伴う役員改選の件
  - 第1号議案から第5号議案いずれも書面による議決権行使を含め、満場異議なく可決され、すべての審議を終了し午後6時35分に第53期通常総会を閉会しました。

### 令和5年度 事業計画

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日  
今年度は物価上昇と海外景気悪化という強い逆風に加え、突如政策変更を決めた日銀の動向という懸念材料を残す中で、景気の腰折れを回避し経済活動の正常化と安定成長によるデフレからの脱却に挑戦する年と位置付けられます。

当業界は、長年に亘り顧客に対し高い品質やサービスを維持しながら、しかも短納期で製品の安定供給をし続けてきました。今後も生活財やフードサプライチェーンの一端を担う当業界が社会的な役割を果たすために、厳しい現状を顧客や社会にご理解いただき、その価値を認めていただかなければなりません。そのため今年度も全国グラビア協同組合連合会が展開する軟包装業界イメージアップ事業に協力します。また待ったなしの環境問題については温室効果ガス削減や再生可能エネ



ルギー普及に取り組めます。

これらを実現するためには組合員の皆さんはもちろん、次世代の業界を担う青年部の皆さん、そして資材や情報を提供してくださっている賛助会員の皆さんとの連携強化が必須であると考えます。社会から必要とされる当業界の確固たる地位を築くために、是非とも令和5年度も皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 基本方針

### 1. 環境問題への取組み

- ① VOC 排出抑制自主行動計画推進策および処理装置の紹介
- ② グリーンプリンティング認定工場の取得推進および支援事業
- ③ 脱炭素再生可能エネルギーの普及など環境対策情報収集・セミナーの開催

### 2. 広報活動の取組み

- ① 業界情報誌「GPJAPAN」の提供
- ② 関西グラビア協同組合の広報活動としてHPの充実およびメールマガジンを通しての速やかな情報発信の確立
- ③ 青年部会員メーリングリストの充実

### 3. 教育情報事業の取組み

- ① 第17回グラビア技術研修会の開催（青年部を主体とした勉強会を年1回開催する）

② 経営者および後継者を主とした第17回経営セミナーの開催

③ 全国の青年部との連携を取るため青年部全国交流会（勉強会、懇親会等）の開催

### 4. 親睦活動の取組み

① 福利厚生事業（総会、年末情報交換会、新年賀詞交歓会、親睦会等）の開催

### 5. 共同事業の取組み

① 共同購入事業（PL、火災共済等各種保険、副資材）の検討および推進

② 外国人技能実習制度の窓口

総会に引き続き、同ホテルの別会場（万葉西の間）にて懇親会を開催しました。堀川 孟青年部副部長の司会進行によりスタートし、再任され9期目となる竹下理事長が開宴にあたり、「私も理事長として今期で9期目となりました。更に2年間理事長を務めるからには、軟包装という我々の事業が世の中で非常に大きな役割を担っているということを国民の皆様、そして業界全体に広めるために、軟包装イメージアップキャンペーンを引き続き全国グラビア協同組合連合会と連携して進めていきたいと思っています。また、この任期中で全国の青年部を1つにできればと思っています



再任の挨拶をする竹下理事長



乾杯の発声を務めた賛助会員代表の大日精化工業の田端隆宏グラビアインキ副事業部長



中締め挨拶をする菅野理事



す。昨年 IGAS2022が東京で開催され、東海グラフィア印刷協同組合、関西グラフィア協同組合からも多くの青年部会員が参加をしてブース運営などに



携わってくれました。このことによって関東・東海・関西の壁はかなり低くなったかと思います。私は常々、各単組の青年部の間に壁があってはいけない、全国の青年部が1つになってALL JAPANとして世界と闘えるような団体になってほしいと思っています。そのための役割を果たせればと思っています」と挨拶しました。

その後、賛助会員を代表して大日精化工業㈱グラフィアインキ事業部の田端隆宏副事業部長による乾杯の発声により宴会が開催され、情報交換や歓談の輪が繰り広げられました。

最後に菅野理事の中締め挨拶の後、一本締めにより午後8時20分すべてを終了しました。



# 目立ってしまいましたが、 実力もすごいのです

「薄く、軽く、柔らかい」が、私たちが皆さんにお届けしている袋の特徴で、「ソフトパッケージ（＝軟包装）」と呼ばれています。一見頼りなさそうな感じを思い浮かべられるかも知れませんが、実はとんでもない優れモノなのです。

## ●「入れる」

食品など中身を入れた後、瞬時に**密封**する機能を持っています。

→レジ袋との大きな違いです。

## ●「届ける」

食品工場から配送センターの倉庫、コンビニやスーパーなどの販売店へ運送する際に、あるいは皆さんがお持ち帰りの際に、中身がもれたり流れ出たりすることはありません。棚や冷蔵庫などの収納でも同じで、柔らかいために狭いスペースにも収まります。

## ●「保つ」

『湿気る』 → お煎餅が湿気てしまっては美味しくありませんね。

『腐る』『酸化する』『かびる』 → 食品がこれでは美味しくないところか、食べることもできません。

「ソフトパッケージ」はこれらを防止する機能を持っていますので、安全・安心にお使いいただけます。

また、中身の香りや、外の異臭・悪臭などもある程度遮断することもできます。何故、そんなことができるのかと言いますと、1ミリメートルの100分の1から数10分の1程度の極薄の様々な機能性プラスチックフィルムや金属箔、紙など他素材との複合化によって出来ているからです。一見、1枚のペラペラのフィルムに見えがちですが、実はそうではないのです。

そして、忘れてはいけないとても重要な役割があります。

## ●「伝える」

グラビアという印刷方式により、皆さんの「健康」「衛生」を支えるためにお伝えしなければならない情報を表現できるとともに、中身のPRや、カラー印刷を用いたキレイで可愛らしいデザインを施すことも可能です。

いかがですか。「賞味期限」を守りつつ、フードロスの削減にも役立ち、安心してお使いいただけるこの優れモノ、「ソフトパッケージ」の価値を改めてお考えいただけませんか。

でも、いったん袋を開けてしまうと密封状態ではなくなりますので、チャック（またはジッパー）付きの袋をお使いの場合でも、また、輪ゴムなどで開封部を止めて頂いたとしても、本来の機能は既に損なわれていますので、出来る限り早めにお召し上がり下さいね。

軟包装価値向上委員会 配布資料1 2023年1月30日作成

# 有田俊雄氏 特別講演会を7月6日に開催

## interpack 2023 視察報告を交えたグローバル包装動向について ～包装界の未来に対する提言と今後への期待～

(公社)日本包装技術協会は、2023年7月6日(木)午後4時～6時半まで、東京・如水会館「2階スターホール」において、「有田俊雄氏 特別講演会」を開催する。テーマは、「interpack 2023 視察報告を交えたグローバル包装動向について～包装界の未来に対する提言と今後への期待～」。

わが国の包装専門家としてグローバルな視点で精力的に活動をおられる有田俊雄氏のほぼ50年に及ぶ包装業務と合わせて、日本と海外を結ぶ橋渡し役としての長年の貢献が認められ、世界包装機構(WPO: World Packaging Organisation)が認定する、2023年の「生涯包装功労賞」(LIFETIME ACHIEVEMENT AWARD IN PACKAGING 2023)をこのほど日本人で初めて受賞した。特別講演では、有田氏がこれまで培われた包装に関する様々な情報を、同氏の豊富な経験とグローバルな視点で披露する。

### ◆ 開催要領

日 時：2023年7月6日(木) 16:00～18:30  
講演16:00～17:30、懇親会17:45～18:30

会 場：如水会館「2階 スターホール」 東京都千代田区一ツ橋2-1-1

定 員：150名

参加費：主催・共催団体\*16,500円、一般22,000円  
(いずれも税込・懇親会費用込)

\*日本包装技術協会、日本包装専士会、日本包装管理士会、日本包装コンサルタント協会、技術士包装物流会、日本包装学会

### ◆ 講演概要

わが国包装業界60年の歴史を自らの「人生3毛作」と重ね合わせるとき、そこには、同様に3つの時代区分がある。戦後が終わり第一次オイルショックまで、高度成長とともに包装近代化が進んだ第1世代。省エネ・省資源、POS導入とともに情報はProduct-outからMarket-inへ、包装の高機能化が進み包装需要も拡大する一方で、増え続ける包装ゴミが社会問題となった第2世代。包

装が、地球温暖化、食品ロス、プラスチック海洋汚染、リサイクルなど、持続可能な社会実現のための課題と深く関わりを持ち始め、その上、デジタル対応ツールとしても役割が認識され始めた第3世代。どの時代にあっても、包装は、各分野の先端技術を駆使して、時代の変化(社会、流通、ライフスタイル)に対応してきた。

さて第4世代(あるべき未来)はどう変わるのだろうか。

「生涯包装人・人生毛作」のプロフィール  
世界の潮流(interpack 2023視察を含む包装のトレンド)

日本の包装が未来に向けて更に発展するための提言

若い世代への期待

### ◆ 申込方法

日本包装技術協会の下記ホームページ「有田俊雄氏 特別講演会」より申し込む。

<https://www.jpji.or.jp/saiji/seminar/2023/0706.html>



## 今月の気になる製品

# 環境調和型 L-LDPE フィルム 「LL-HMN」

フタムラ化学(株)  
プラスチック生産企画部 PF 開発統括  
TEL. 052-444-9837

フタムラ化学(株)は、従来生産している汎用的な L-LDPE フィルムと同等の剛性やシール性能を維持しつつ、約20%のプラスチック使用量削減\*が可能で新しい環境調和型 L-LDPE フィルム「LL-HMN」の生産を開始した。同フィルムにより、一般的な食品包材のみならず、詰め替え用パウチのようにシーラント基材が厚い包材に対して、プラスチック使用量を削減することが出来、環境負荷低減を訴求することが可能となる。

LL-HMN の主な特長は次の3つ。

### ①従来の厚みのコシ感を維持しながら、約20%プラスチック使用量を削減できる

同社独自の高剛性設計技術により、汎用的な L-LDPE から20%の減容化を行っても、従来の厚みのコシ感を維持することができる。

### ②従来の汎用的な L-LDPE フィルムと同様、優れたシール性能を継承

従来と同じ包装条件、使用環境で使用できるよう、シール温度やシール強度を汎用的な L-LDPE フィルムと同等性能になるように設計している。

### ③ノンパウダー処方により優れた耐ブロッキング性能を有し、加工適性にも優れる

ラミネート加工や製袋適性に配慮したフィルム設計となっている。

\*「約20%のプラスチック使用量が削減可能」とはL-LDPE フィルムの厚みを約20%低減させても従来と同じように使用できることを意味する

【構成例】

